

最新地質図の紹介

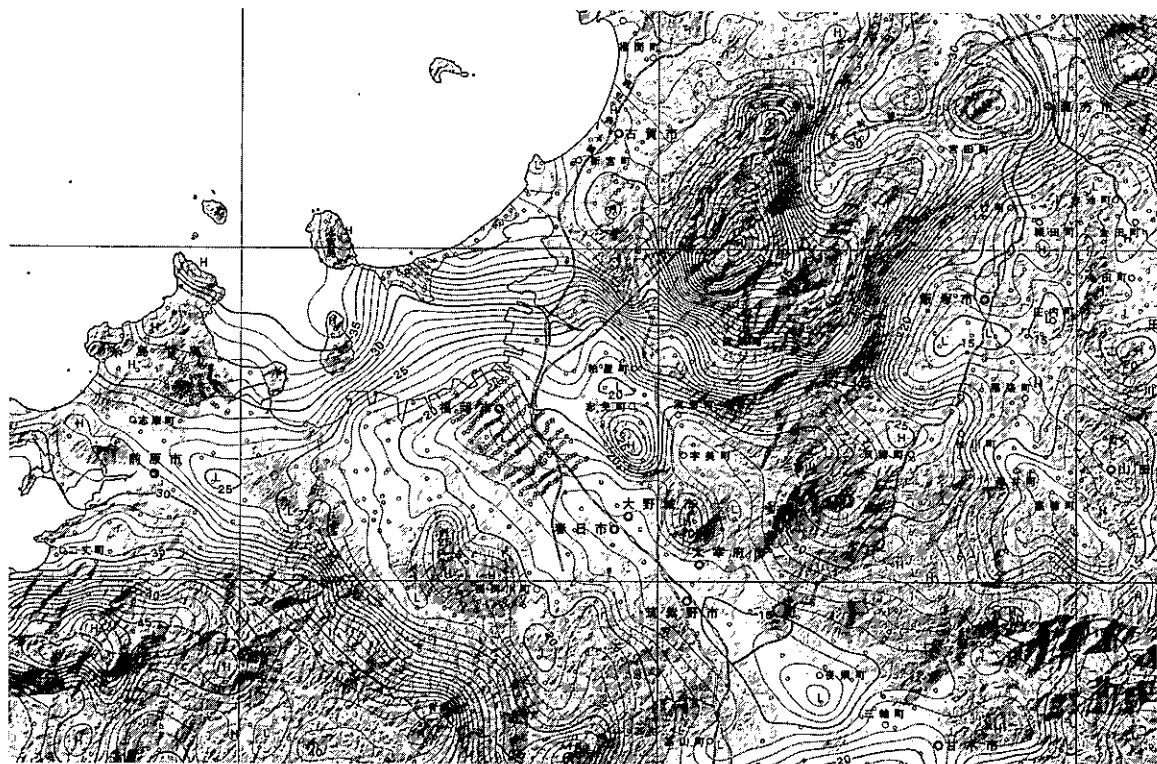
福岡地域重力図(ブーゲー異常)

森尻 理恵¹⁾・広島 俊男¹⁾・駒澤 正夫¹⁾・牧野 雅彦²⁾
村田 泰章¹⁾・名和 一成¹⁾・西島 潤³⁾・茂木 透⁴⁾

「福岡地域重力図」は重力基本図として18枚目、九州地域では「大分地域重力図」に続いて2枚目の出版物です。そしてこれは地質調査所が産業技術総合研究所地質調査総合センターに再編されて初めての重力基本図です。今回から、地形と重力異常との関連を見やすくするため、背景に地形の陰影図が重ねられました。また、No.18の福岡は日本測地系が採用されていますが、2002年4月の測量法の改正で日本測地系から世界測地系へ移行がな

され、No.19の唐津地域重力図(今年度出版予定)から世界測地系が採用されます。村田ほか(2002)で指摘されているように測地系が変わり、測定点の緯度が変わると計算される正規重力値が変わり、その結果、重力異常値が少し変わります(東京付近で約0.3mGal)。

ところで、重力基本図は、先に出版された隣接する重力図に対して経度7.5分(2万5千分の1地形図1枚分)だけだぶらせて作成しています。福岡と



第1図 福岡地域重力図(ブーゲー異常)の一部。

1) 産総研 地球科学情報研究部門
2) 産総研 深部地質環境研究センター
3) 九州大学大学院工学研究院
4) 北海道大学大学院理学研究科

キーワード: 重力図, 20万分の1, ブーゲー異常, 福岡, 九州

唐津(印刷中)の場合は東経130度から130度7.5分までだぶります。次回から測地系が変わりますが、このだぶりの部分のパターンを比較することによって、対応が付きまます。

福岡地域の既存データが希薄なところを補うために、地質調査所では、新規重力調査を1998年から2000年までの3年間に、主として福岡市周辺で実施しました。九州大学では、詳細な地下構造を把握するため、福岡県内で高密度重力調査を実施していました。図面作成においてはさらに、地質調査所の既存データのほか、関係諸機関の既存の重力測定資料もコンパイルしました。

重力異常図が出来るまでの基本的な解説、福岡地域の重力異常の特徴については、既に森尻ほか(2003a, b)にありますので、ここではあまり詳しく説明いたしません。

上述のように、重力基本図に地形の陰影が重ねられたことは、地形との対応が付きやすくなったと、概ね良い評価が得られたと思います。しかし、印刷原版が1枚増えたことによって若干価格が上がってしまいました。さらに印刷技術上まだ若干の問題がありますが、シリーズの中で折々解決されていくものと考えています。

最後に、100万分の1重力図が既に出版され、それに対応した1kmメッシュデータがCD-ROM出版されています。これは、日本のテクニクスを論じたり、大規模な地殻構造を議論するのに適してい

ます。一方で、20万分の1スケールの重力基本図は、地質図との対応が付きやすく、防災や市民生活により近いスケールの地下構造を把握することが可能です。スケールの違う図面を作るには、そのスケールにあった作業が必要になります。ですから、地質調査総合センターでは、今後とも20万分の1の基本図を中心とした出版を続けて、必要な情報を提供していく予定です。

謝辞：「福岡地域重力図」を作成するに当たり、本地域のデータを保有する多数の調査機関から貴重な重力資料を提供していただき、使用を許可していただきました。ここに感謝の意を表します。

文 献

- 村田泰章・駒澤正夫・牧野雅彦・森尻理恵・西村清和・広島俊男・石原丈実(2002)：名寄地域重力図(ブーゲー異常)。地質ニュース, no.572, 27.
- 森尻理恵・広島俊男・駒澤正夫・牧野雅彦・村田泰章・名和一成・西島 潤・茂木 透(2003a)：福岡地域の重力異常について。地質調査研究報告 vol153, No.7/8, 573-594.
- 森尻理恵・広島俊男・牧野雅彦・村田泰章・名和一成・駒澤正夫(2003b)：重力図ってなに？ 地下にあるもうひとつの地形！。地質ニュース, no.583, 31-33.

MORIJIRI Rie, HIROSHIMA Toshio, KOMAZAWA Masao, MAKINO Masahiko, MURATA Yasuaki, NAWA Kazunari, NISHIJIMA Jun and MOGI Toru (2003) : Intorduction of the "Gravity map of Fukuoka District (Bouguer Anomalies)".

<受付：2003年1月30日>